



これで良いのかなあ

# JRのレールが危ない?!②

(前号のつづき)

## 3ヶ月もほったらかし!

大幅に延伸された線路はどうかと言うと、草木はのび放題で、モニタリング装置のレーザーを変に遮断してしまうため、異常数値が発生し、列車運行に支障が出る場合がある。

以前は草や木の枝が当たれ

ば、すぐに乗務員から苦情が来たが、今はバチバチ当たっても一件も苦情がない。

他にも動物の死骸(かたずけも仕事)が累々としていたり、雨による碎石の流失による陥没、締結装置の破損・脱落など、3ヶ月も人が入らないと色々な事象が起きてくる。

## 技術継承の大問題

国鉄採用のベテラン社員の退職がピークを迎え、現場を熟知している人がいなくなり、数値ばかりを追いかけて、現場状況を察知出来ない社員だらけの保線職場になってしまった。

これはJR本体だけの状況ではなく、パートナー会社(下請けで、実質線路を直している人たち)でも、キツイ仕事に嫌気がさして、若者の離職率が高く、常に要員不足である。

仕事の仕方も、その時だけ決められた数値の範囲内での作業に終始してしまい、前後の状態を把握してないので、数値は多少良くなっても、乗り心地は良くない線路が出来てしまう。

これをくり返すことになり、実際は無駄で非効率である。

## うたてつ ノススメ⑮

### 銀色の道(ダークダックス) 1966年10月

遠い遠い はるかな道は  
冬の嵐が吹いてるが  
谷間の春は花が咲いてる  
ひとりひとり 今日ひとり  
銀色の はるかな道

ひとりひとり はるかな道は  
つらいだろうが 頑張ろう  
苦しい坂も止まれば下がる  
続く続く 明日も続く  
銀色の はるかな道

続く続く はるかな道を  
暗い夜空を 迷わずに  
二人の星よ 照らしておくれ  
近い近い 夜明けは近い  
銀色の はるかな道  
はるかな道 はるかな道

1951年の結成デビューから2016年まで全くメンバーを変えずに活動を続け、その功績がギネスブックにも載ったすごい人たち。大学時代から80歳を超えるまで?!個人的にはロシア民謡や唱歌などのイメージが強いが、この曲を久しぶりに聴いて、黒人音楽(霊歌やドゥワップとか)もしっかり吸収していたことを知り、嬉しくなった。

作詞は塚田茂、作曲は宮川泰。直接的な鉄道ワードはひとつもないが「銀色の道」が、すなわち2本のレールを表しているのは歌詞の情景を見れば分かる。また山あり谷ありの人生にも例えられているようだ。

1番の「ひとりひとり」2番の「続く続く」がそれぞれ2番と3番の頭に反復し、3番の「近い近い」は1番の「遠い遠い」に再びつながるといふ心憎い作風。ひとつのゴールに着いても、また新しいはるかな道が続くという、レールは人生そのものだ。厳しいけど、だからこそ面白いのだよ。

シンプルな言葉、シンプルなメロディ、名曲かくあるべしだ。「苦しい坂も止まれば下がる」は汽車を連想するが、同時に自分の生き方も示してくれているようで一番好きなフレーズ。「つらいけど頑張ろう」という自分への励ましソングになった。皆さんもどお?良いお年を。

レポートをいただいたOBの方は京葉線の担当で、今回は他線区も含めての報告です。

機械化が進む中で、一番危惧するのは、やはり技術継承の問題のようです。若い社員はレールの破損等をPCの画像やデータの数値でしか判断できず、実物は見たことがないという実態に、そんな線路に電車を走らせて良いのかと、不安になります。体で覚えた経験値が物を言った国鉄時代の職人気質・・・既に死語なのでしょうかね?

貴重なレポートありがとうございました。